

Japanese Occupation of the Philippines

バターン・コレヒドール陥落一周年記念切手と初日記念印

概要

1942年5月7日、日本軍はマニラ湾の入り口に位置するコレヒドール島要塞を陥落させた。これにより比島攻略作戦が完了となった訳で、日本軍政にとって5月7日は重要な記念日となった。陥落一周年記念切手は周到に準備され、日本の内閣印刷局が製作したグラビア印刷の高品質なものが用意された。最終図案は内閣印刷局の山野内孝夫技師が担当した。但し、マニラ印刷局のRafael Araujo技師が原案を作成したとの説があり、同氏がその旨を記し署名をしたマニラ局初日カバーが残されている。

1943年5月7日、陥落一周年記念日に2センタボ(赤:葉書料金)と5センタボ(緑:封書料金)の同一図案の2種類の切手が発行されたが、日本の統治が比島全土に及んでいる事をアピールするためか、マニラだけでなく、約40か所以上の地方局(特別市と州都)において売り出され、各局では記念印が使用された。

日本軍が制圧できなかった西Misamis州とAgusan州を除いた48の特別市と州都のうち、42か所の記念印が確認されている。残る6か所のうち、1943年5月時点で郵便局が再開していなかったCapiz州Capiz、Lanao州Dansalan、Bukidnon州Malaybalayの3か所は、記念印の使用が確認される可能性は低い。残りのCagayan州Tuguegarao、Cavite州Imus、Bohol州Tagbilaranの3か所は郵便局が再開されていたので、今後、記念印の使用が確認される可能性は十分にある。

使用された記念印

右図の通り、局名部分のみ異なる同一デザインで、押印の色は、マニラ局は緑、地方局は紫である。但し、Isabela州EchagueとAntique州San Joseの印は黒である。



展示の構成

切手について、**2C、5Cそれぞれ50枚完全シート**を展示し、知られている3つの定常変種、即ち、2C切手40番「2の下のかすかな白いもや」と43番「CORREGIDORかすれ」、そして5C切手40番「5の横の白点」を示した。

加えて、500部が関係者に配られた**贈呈帖**2点(封入された切手を含めた完全版とバルガス行政長官の署名付きのもの)、そして前述したマニラ印刷局の**Rafael Araujo技師の署名つきマニラ局初日カバー**2点を展示する。

初日記念印については、確認されている42か所のうち、Bayombong、Cagayan、Cotabatoの未収3局を除く**39局の記念印付き初日カバー**を展示する。CatbaloganとJoloの記念印は新発見で、かつ知られている唯一のものである。郵便検閲が為されていた時期であり、この記念印が押された初日カバーは、希少なPalawan、Surigao、Catbaloganなどの検閲印が付いたものが含まれ、当時の検閲状況がわかる資料でもあるので、それぞれ検閲状況について注記した。

参考文献

矢野文彦「バターン切手筋記」関西郵趣1985年7月号、8月号

Eugene A. Garret「A Postal History of the Japanese Occupation of the Philippines 1942-1945」